

# 僕等の福音

北多摩砂川 山本野琴

先頃友人の晩韻子が大下先生のところへ参つたおわり、いろ／＼とお説話を頂ひたそうだが、その時先生は『まづ水彩を學ぼうとする初學者は、郊外の漠たる寫生をするよりか、むしろ小範圍内に限れる一木一草とか、芝生とか、または、土橋、垣根、燈籠、岩、石等の一小部分を一個々々、精密に着實に寫生したならば、他日人の模倣し得ざる獨得の發明、や、熟達をとげるだらう。』云々と、呉れ／＼のお説諭であつたこと。

あゝ！ 僕等のやうな初學者にとつては、何と云ふ尊とひ福音でしやう。

## 感謝

月 草 生

卅四年夏病んで或海水浴場に加養の身となつた折、愛讀して居た文庫に、大下先生の水彩畫の葉が廣告されて居るのを買つたのが水彩畫に志した動機で、昨春『みづゑ』九號に接し、再び各枯れて居た嗜好が萌芽を合し、日曜も祭日も無い多忙な職業の寸

閑を盗み得ては彩筆を弄して快しんで居る、殊に往診の途上、自然の光景を研究すれば其苦も知らず、一二里も敢て遠くは無く、無趣味な山路も大に趣味を感じ愉快である。又職業上に利益を興へたのは觀察力の養成で、殊に診斷の粗略を精密ならしめたのは、畫に志してからの事で、大に感謝して居る次第である。又別問題であるが、僕は下先生を木下と讀んで居たが、此頃始めて氣がついた。

## 開書

本郷紅 生

小生は太平洋畫會に對して常に同情を有するものに御座候、今春開かるべき東京府博覽會には、小生の常に敬愛する太平洋畫會諸君の作品を澤山拜見し得べく楽しみ居候、殊に小生の最も敬意を表する春鳥會諸先生の水彩畫を拜見するを樂しむものに御座候、而して諸先生の上に名譽の榮冠の下らんとを冀ふものに御座候、然るに今日發表せられたる審査官なる人々の顔振を見るに、小生の記憶する處にては、太平洋畫會に屬する人は一人、巴會一人、會に關係な

き人二人にて、他の五人は皆白馬會に屬する人々に有之候、審査は公平なるべきは元よりの事に存候へ共、これにては人選甚たしき不公平にして其結果も今より知り得べく、太平洋畫會のために大に危むに足る、美術家は嫉妬偏狹のもの多しときく、何とか方法其之ものに候哉、これに對する春鳥會諸先生の御所感如何。右はみづゑ紙上を汚すべき種類のものに無之候へ共、小生と同感の人も可有之存候間、何卒々々來月の紙上に御掲載の上御意見も御示し下されたく候。

三月六日

御同情を謝す。吾々の博覽會出品は趣味の普及が重で、名譽心の満足を得るためてはありませんから、授賞の如きは成行に任すのであります、又心配になる程不公平のももあるまいと信じてゐます。(春鳥會同人)

\* \* \*

\* \* \*